

訓練内容

ロープワーク(ひもの結び方)訓練 (講師: 四国地方防災エキスパート※)

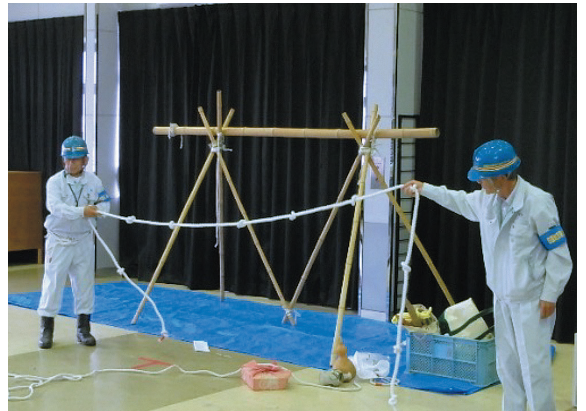
津波・高潮・洪水など、あらゆる水防対策の基礎となる「ロープワーク」について、訓練を行いました。

日本における「ロープワーク」は、古来から伝統技として数々の工夫がなされ、さまざまな形が考案されています。今回の訓練では、数ある中から「ほんむすび」、「ふな結び」、「かみくし(避難ロープ)」、「もやいむすび」等についての講義を受け、参加者はロープを手に練習しました。

「ロープワーク」では①早く、②簡単に、③確実に、が重要となります。災害時、短時間で確実に結べないと効果が発揮できないため、日頃から練習し自然と手が動くようになってもらえればと思います。

また、その他に防災上参考となる簡易的な土嚢作りや、ペットボトルの活用術についての説明もあり、大変参考になりました。

(※防災エキスパートとは、土木施設や防災等に関する経験や専門知識を有する技術者で、大規模災害発生時には四国地方整備局から要請を受けて、公共土木施設等の被害情報を集めて管理者等に報告する事になっています。管理者等は防災エキスパートからの情報を、被害拡大の防止や早期復旧等に役立っています。)



↑ ロープワーク訓練の様子

応急手当訓練 (講師: 小松島市消防課)

地震などで負傷した人を救護する場合の応急手当の方法について、訓練を行いました。

訓練の内容としては、家庭にある物干竿のような棒状のものと毛布又は衣服を使用した応急担架を作ってけが人を運搬する方法や、三角巾を使用してけがをした箇所の止血や固定を行う方法、心肺停止した人に対して胸部圧迫やAEDを使用して蘇生を行う方法等について講義を受け、参加者は単管パイプや毛布、三角巾、心肺蘇生訓練用の人形やAEDなどを使用して、応急手当の手順を練習しました。

心肺蘇生といえば、まず人工呼吸を思い浮かべることが多いですが、口周辺から出血しているなど、人工呼吸にためらいが生じた場合は、胸骨圧迫だけでも効果があることがわかっているので、行ってくださいという説明もありました。

訓練を受けて感じたのは、けが人を見つけたら、すぐまわりに助けを呼ぶことが大切だということでした。また、近年、駅や役場、商業施設などでAEDが設置されているのをよく見かけますが、一通り手順を学んだことで、躊躇なく使用できるようになれたのではないかと思います。



↑ 応急手当訓練の様子